

かながわのまつり五十選 お三の宮のいわれとおまつり

日枝神社(俗称お三の宮)は寛文十三年九月(今より三百五拾年ほど前)に創建されたものです。

神社の奉建立主は江戸在住の大名諸家御用達(武鑑所載)木石材商吉田勘兵衛翁です。

翁は摂州国能勢郡吉野村歌垣の生まれで(丹波亀山城主波多野宗春の後なり)弱冠江戸に出て一代で財を成しました。かねて宿願でありました新田の開発に横浜鐘形湾の入江に着眼埋立を計り明暦・万治年間十数年の歳月と八千余両の巨費を投じて寛文七年にこの一代難事業を完成しました。その地積は実に百十六町歩の広大なものでした。幕府はその功に対して吉田姓にちなみ吉田新田と命名され苗字帯刀を許されました。

新田完成後吉田勘兵衛翁は住民の安穏と五穀の豊穰の守護祈願として江戸赤坂日枝神社の御分霊を奉斎して山王大権現(山王社)として稲荷大明神を奉斎し稲荷社として尊崇しました。

このことについては簡単ですが新編武蔵風土記稿に次のように記してあります。

「吉田新田万治二年江戸材木町の商勘兵衛入海開けり。功終つて後己が苗字吉田といえるを以って即ち新田の名とす。山王社、稲荷社除地西の方にあり。村の鎮守なり。」

尚俗称については両社創建に方り大乘経の一部を埋納し地鎮祭を

行ったのを民間訛伝して新田埋立の人柱となったお三の霊をまつたものと云うことになったが、もとより附会の説で日枝神社は初め山王大権現又は山王宮となりおさんの伝説を附会しお三の宮と書くようになったと思われます。

明治になって日枝神社・稲荷神社と改称され現在に至っています。社宝としては寛文十三年吉田勘兵衛翁の奉納した木製塗色の獅子狗一対があります。

神社の大神輿(千貫みこし)は昭和九年三月境内に作事場を設け半歳を要して製作されたもので、その大きさ、功緻さ、荘重さ等市内唯一の貴重なものです。

御例祭の行事としては大神輿御巡行と各町神輿の連合渡御とがあります。

戦前・前者にあつては三日にわたり飾り立てた黒牛に引かせ氏子各町を御巡行、後者にあつては当時市内唯一の盛り場伊勢佐木町の商店街を神社迄、百基を越す神輿山車の連合渡御とまことに華麗壯観の行事で市内各所より多数市民が参集股賑を極めました。

戦後一時中断しましたが、氏子の復興に伴い神社大神輿の御巡行は毎年(二日)、各町神輿の連合渡御も隔年ながら復活年毎に盛大となり今日に至っています。

横濱開拓の守護神

関外総鎮守 お三の宮

日枝神社

奉祝 御鎮座三五〇年

例大祭

令和五年

九月一五日(金) 例祭式典執行

一六日(土) 神社大神輿

(千貫みこし)御巡行

一七日(日) 町内神輿連合渡御

(神輿パレード二十三基)